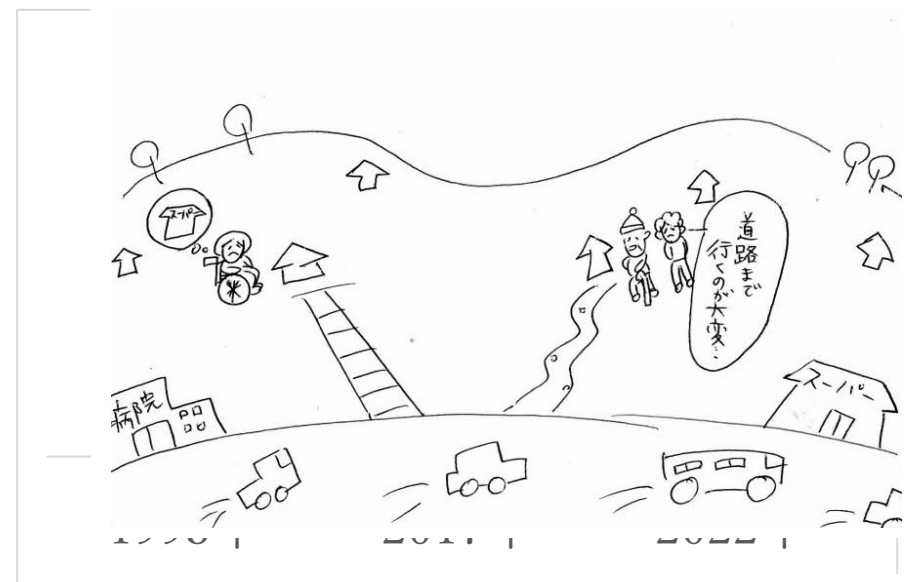


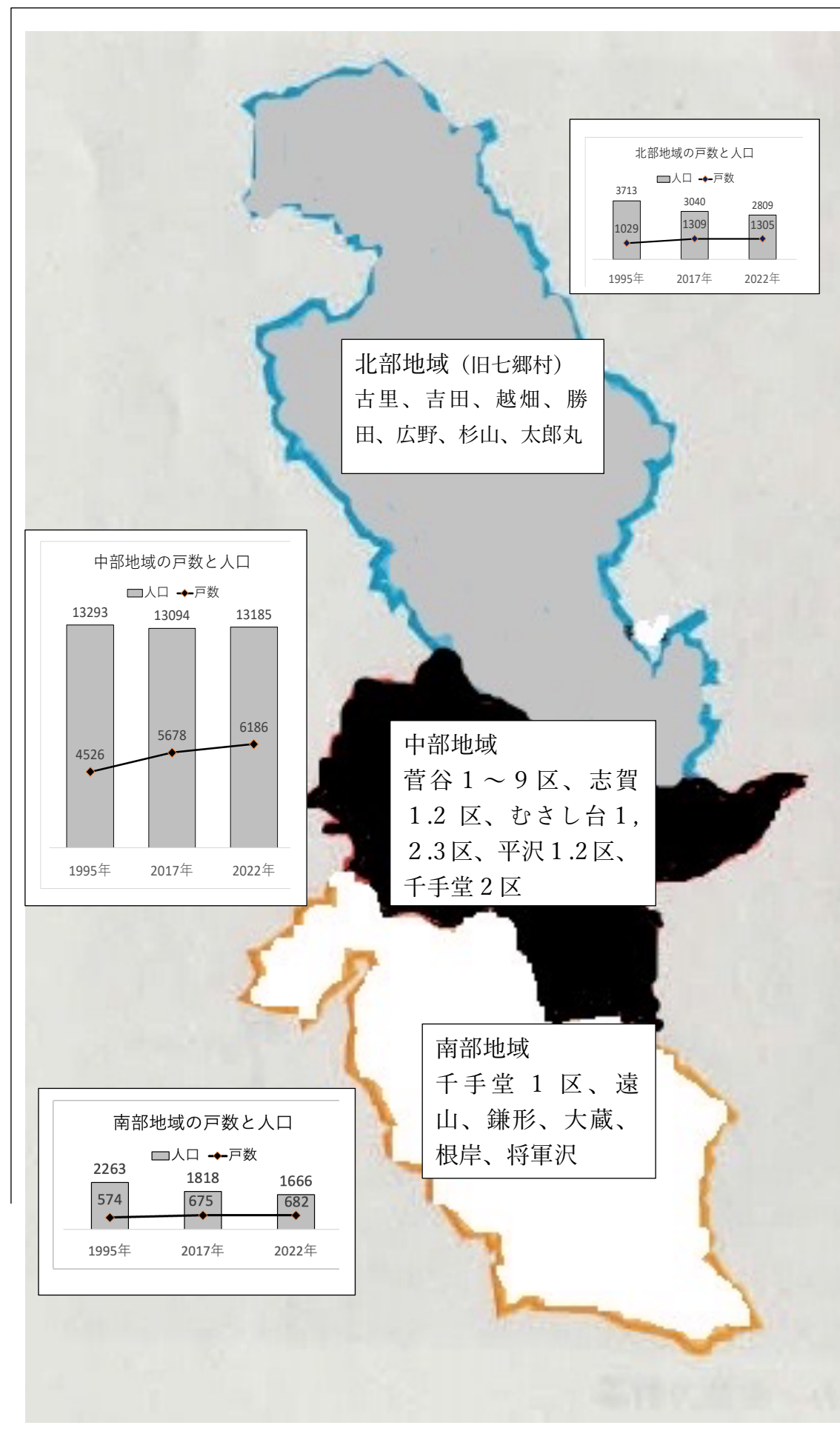
学校再編と町のあり方は

- 小中学校再編審議会の傍聴より、現菅谷中学敷に小中学校5校を1校にする学校の予定地として町長に答申すると推測できます。
- 小中学校の再編は、少子化による学校教育だけではなく、地域が持続できることも一緒に考える必要があります。
- 右の地図とグラフは嵐山町の地区別の人口と世帯数の変化です。中央地区は人口減少は少ないのですが、北部地区、南部地区は減少しています。戸数はどの地区も増え、一人「暮らしが多くなっています」
- 中央地区には嵐山町の75%の方が住んでいます。嵐山町の約半分の面積の北部地区には16%の方が住んでいます。南部地区には9%の方が生活しています。
- 南部地区・北部地区ともに、市街化調整区域です。その地区に住む方の親族以外の方は、家を建設できません。地区外の方が南部地区、北部地区に住むには空き家を見つけて、転居する方法がありますが、見つけるのに一苦労。
- 一方、北部地区の七郷小学校・玉ノ岡中学校が閉校になると、これから子そだてをするカップルは、中央地区に生活の拠点を移す方が増えてくると推測できます。北部地区のますますの人口減少が予測されます。

南部地区。北部地区が元気であるには



- 南部地区の鎌形には、町立幼稚園があります。また、バーベキュー場に多くの方が町外から来ています。中央地区に距離的に近いのです。
- 北部地区は町外と中央地区からの交流の場が必要です。嵐山町は、かつてはため池で農業をしていました。ため池農業は農業遺産にはならなかったのですが、生態系を保全していました。かつて町民大学がありました。七郷地区で再開し、発展させませんか
- 空き家活用で民泊もできると交流がしやすくなります。



気候変動対応のまちづくりに

—生態系を破壊しない再生可能エネルギーと緑を増やす街づくりを—



- 北部地区・南部地区に里山の緑、清流があります。更なる工業団地造成、住宅開発、太陽光発電所設置で山と緑が少なくなっています。
- 高齢になった方が里山を管理しているため、里山の維持が難しく、太陽光発電所などに山を売却する方が出てきます。山の木がきられ、造成されると里山の生物たちは生きていくことができず、生態系が崩れ山も崩れていきます。
- 農業する人も高齢化し農業を引き継ぐ人が少なくなっています。里山・農地が荒廃しないで生活が維持できる仕組みを作る必要があります。
- 町民の皆さんが学校再編に加え、北部・南部地区の元気づくり、気候変動の対応も一緒にしたまちづくりなどに意見をだしあえる場づくりを提案していきます。

嵐山町地域別人口推移

□ 南部地域 ■ 中部地域 ■ 北部地域

